

東京帝国大学入学者に関する統計

古屋野 素材

はじめに

東京帝国大学時代の入学者数の推移を新入学生・生徒の入学前学歴の種別に注目して概観するのが本稿の目的である。依拠する資料の関係から、今回は、明治三十三(一九〇〇)年より昭和十七(一九四二)年までを集計の対象とした。また多様な入学者の中でも、今回は特に、外国籍の学生・生徒、官私立大学からの大学院進学者、及び学士入学者に注目して、いささかたちらいた資料整理を試みた。これは前回(『東京大学史紀要』第一号)の「東京帝国大学院に関する統計資料(一)」での問題意識とも若干の関連をもつが、それについては、次の、各表の説明の部分で触れることとする。

▼表・グラフ一覧

・表① 《東京帝国大学入学前学歴別入学者数》——明治三十三(一九〇〇)年〜昭和十七(一九四二)年——

・表② 《外国籍学生・生徒入学数》——明治三十三(一九〇〇)年〜昭和二十(一九四五)年——

・表③ 《外国籍大学院学生入学数》——右に同じ——

・表④ 《大学院入学者中、官私立大学出身者の内訳》——昭和十(一九三三)年〜昭和十七(一九四二)年——

・表⑤ 《学士入学者数》——明治三十三(一九〇〇)年〜昭和十七(一九四二)年——

二二)年——

・表⑥ 《学士入学の出身大学・学部及び入学先内訳》——右に同じ——

・表⑦ 《学士入学の動向》——表⑥をもとに作成——

・表⑧ 《学士入学の傾向》——表⑦をもとに作成——

・グラフ① 《外国籍学生、生徒入学数》——表②③をもとに作成——

▼各表・グラフの説明及び凡例

表① 明治三十三(一九〇〇)年度の『東京帝国大学一覽』(以下「一覽」と略す)から、付録図表類の中に「本学年入学 学生生徒学科並入学前ノ修業学校別」なる表が含まれるようになり、戦前最後の昭和十七(一九四二)年度の「一覽」まで続いた。

この表は大学院及び各学部(大正七年度までは分科大学)各学科の新入学生・生徒数を示すと同時に、「大学院」「各学部(分科大学)」のワク別に、新入生の入学前最終学歴を種別してそれぞれの人数を示している。その場合「学生」として計上されるのは大学院入学者と、各学部(分科大学)の正科(卒業して学士になるコース)及び研究科入学者で、「生徒」として計上されるのは、各学部(分科大学)選科や時期によって様々なものがあるが、農学部の実科や農業教員養成所、医学部国家医学講習科等の附属教育機関への入学者である。そもそも本稿全体は、この「一覽」の表を一括集計すること、東京帝国大学の教育機関としての多様なレベルを含む構造を入学者の学歴種別という面で概観することを動機としたものである。しかし「一覽」が刊行されず、もっとコンパクトなカレンダーとしての『東京帝国大学要覽』

(以下『要覽』と略す)が刊行された年度にはこの表は含まれず(大正十・十一・十三・十四・昭和二・五・六・七・九・十年)、この表をもとにするだけでは、空白部分の多いものになってしまつたため、他に資料を求めてできるだけ空白部分をうめるように努めた。ただしこのことは、表①が異質な統計数値を含むことになって、統計資料としての一貫性を欠くことになったことは否めない。ただ、現在のところ、戦前期の学生統計を一貫した形で整え得る基礎資料が年度毎に極めて不揃いなため、色々な点で不十分であつたり疑問があつたりはするものの、学歴種別であるとか、外国人学生の国籍とか、少したちいった面に関する数値は『一覽』に依らざるを得ないのが実情である。従つて、表①も個々の数値には問題は残るものの、ある時期の当該集計対象の動向、傾向をおお把握にするためのものとしての、ひかえめな存在理由をもつにとどまるのもやむを得ない。

また、多様な入学者群といつても、表①にあきらかな如く、入学者の常に九割近くが高等学校出身の正科生であり、その他のうち大学院生を別にすれば、ほとんどが農・医学部(農・医科大学)附属の専門学校・実業学校レベルの機関の「生徒」であつて、「生徒」の入学先の分類が表に示されていないことにも問題が残るが、「多様性」というほどの事象が示されているとはいえないかもしれない。ところが、もし同じような表を他の帝国大学について作つて比較してみれば、特に東北や九州では、正科入学者の出身校が、専門学校などにも分布して、東大よりもかなり多様な状況がうかがえるはずであり、そうしてはじめて東大の、学生構成の多様化に対する非弾力性が明らかになるかもしれないが、これらの検討は別の機会にゆづりたい。

凡例

(1)上部に↓あるいは▽がついている年度は『要覽』刊行年で、「本学年入学生生徒学科並入学前ノ修業学校別」の表が存在しないため、別の資料に依つたことを示す。

↓の場合は、当時の入学関係事務書類の中から、この表をできるだけうめることができると探して資料としたもので、いずれも各学

部が大学本部へ報告してきたものを集計した。

大正十年度は大正十一年三月末日現在、大正十一年度は大正十一年九月末日現在、大正十四年度は大正十四年五月末日現在のものに依つた。

▽の場合は、事務書類にも適当なものがないため『文部省年報』に依つた。

(2)数値は原則として、何もつかないものが大学院学生及び学部(分科大学)学生を示し、()内のもは選科、実科等の生徒を示す。ただし、明治三十六(一九〇三)年から四十三(一九〇八)年までの東大出身者の上段の()内の数は、この期間大学院とは別箇に医・文・理の各分科大学におかれた研究科⁽³⁾への入学者を、学士入学者数の内数の形で示したもので、()内外の差が所謂学士入学者数となる。

(3)※大正十二(一九一七)年度から昭和十二(一九三七)年度までの帝国大学からの学士入学者数が；で囲つてあるのは、表⑤⑥の基礎作業として、それだけの年度の『一覽』あるいは『要覽』の「学生生徒姓名」の項にあつて学士入学者を数えたもので、どの年度もこの部分だけ、他の部分と依拠資料が別である。

(4)入学前学歴の種別は、基本的には『一覽』の付表にならつたが、「官公立大学」「私立大学」「高等学校(山口高商・北大予科も含む)」等、個々の学校名をひとまとめにして扱つたものもある。

(5)大学院入学に際しての「学力検定」なるものが実際にどのようなものであつたかは明らかではないが、規程では大学院発足(明治十九年)以来一貫して、他大出身者あるいは学士以外の志願者についても、「学力検定」等による入学の道が開かれていた。『一覽』の姓名表から大正三年の一名が文科大学選科修了者であり、昭和十三年の一名が海軍経理学校出身者であることはわかつたが、その他の三名の学歴は不明である。

(6)「学力検定」「再入学」「転学・転科」等については入学規程中にそれぞれ条項がたてられているが、実態がどのようなものであつたは充分明らかではない。表⑤⑥⑦のところでも触れるように、学士入学の場合には『一覽』

『要覧』の学生姓名表で出身大学学部がつかめるが、「学力検定」「再入学」「転学・転科」の場合、いくつかの例外を除いて、それぞれが明記されなため、具体的に誰という形で把握できない。当時の事務書類の中から、これらに関するもの（おそらくは個々の志願者の願書のレベルまで）をたんに探ることが必要であろうがそれは今後の課題としたい。特に「学力検定」については、外国籍学生及び台湾朝鮮半島併合地域からの進学者の取扱いとも関連している点があるが、ここでの詳述は避け、実態把握は今後の課題とする。

(7)陸海軍関係の学校からの入学者は、定員外に特に受け入れたものとして「員外学生」と呼ばれたが、これは明治三十三(一九〇〇)年制定された「工科大学及理科大学陸軍砲工学生規程」「工学部及理学部砲工学生規程」(大正八年より)及び大正七(一九〇二)年制定の「理科大学海軍学生規程」「理学部海軍学生規程」(大正八年より)等によるものである。⁽⁴⁾

(8)昭和十七(一九四二)年度に二つの統計があるのは、戦時体制下で、高等学校等の修業期間が六ヵ月短縮になり、その適用を受けた最初の学年が九月に卒業して十月に進学してきたため、入学関係統計も二つ存在することになったのである。

* * *

明治三十三年度の『一覽』から、新たに「入学前ノ修業学校別」なる付表がつけられたのは偶然ではなく、明治三十年前後からの教育制度をめぐる大きな動きが背景にあるといえよう。明治三十(一九〇七)年に京都帝国大学が設置され、東京にあった「帝国大学」は東京帝国大学となり、複数となった帝国大学は、ある意味で相対化され、それぞれの個性を有して個別化してゆく契機をもつ。特に明治三十二(一九一九)三十三年には、東大内外で様々な制度的改編が行われ、入学関係についても、高等学校大学予科規程の改正、前述の「工科大学及理科大学陸軍砲工学生規程」の制定、及び表②③のところでも触れる「文部省直轄学校外国委託生規程」の制定(いずれも明治三十三年)等があり、同時に大学院規程の大幅な改正もあって、入学関係の取扱い体制がかな

り整備・一新されたことで『一覽』にこのような表を加えることに意味があるような学生構成の一定の多様化がみられ始めたのだろう。

表② 明治三十三年に「文部省直轄学校外国委託学生ニ関スル規程」が制定され、翌三十四年、細部の文言に手直しが加えられて「文部省直轄学校外国人特別入学規程」となるが、このような規程が必要となった理由として、次のような説明がある。「日清戦役以後我國の真価漸く世界に認められ爾來東洋諸國殊に支那印度朝鮮等の学生我國に來り学ぶ者漸次増加し、軍人は成城学校陸軍幼年学校陸軍士官学校に其他は文部省直轄諸学校及私立学校に入学し尚ほ将来益多数の留學生が派遣せられるべき情勢に在ったので……」(松浦鎮次郎編『明治以降教育制度発達史』昭和十四年、第四卷、六六五頁)。これ以前における東大での外国人学生の扱いについては充分に明らかではないが、文部省年報に東大における外国籍学生の存在が明示されるのは明治三十三年からである。ただし、日清戦争後の明治二十八(一九一三)年から台湾が日本の統治下におかれたため、この地域からの留學生は法制上は外国人とされないで表②③には含まれない。同様に、明治四十三(一九〇八)年の日韓併合の結果、朝鮮からの學生も外国人ではなくなり、表②③では計上されなくなるのである。しかしながら、学内での取扱いは、「外国人學生及び朝鮮人台湾人學生」という形で事実上外国籍學生と同様にみなされていたようである。従って、この表②③及びグラフ①が、東大内の外国籍系の學生の動向を充分に示しているとはいえないかもしれない。

表③及びグラフ① 『東京大学史紀要』第一号の大学院に関する統計で、課題として残しておいた外国籍院生の動向について、部分的に整理したのが今回の試みである。特に前回のグラフ3と今回のグラフ①を比べてみると、昭和十年前後の院生数の急増減が、外国籍院生の動向にかなり規定されていることが認められ、その内訳が、特に文学と農学の専攻者の集中的な急増減であることが表③からわかる。この事態の背景は充分に把握できてはいないが、この時期の大学院改革論議にも少なからぬ影響を与えたようである。⁽⁸⁾

表④ 昭和十(一九三五)年法学部大学院生となった立石芳枝氏(明治大学出身)。

後年明治大学教授、同女子短期大学学長）をかきわきりに、女子を含む、所謂内地の帝国大学以外の、官私立大学からの大学院進学者がみられるようになった。これも、その背景や、これら院生にとつての当時の東大の大学院進学の意味等についての検討を今後の課題としたい。

表⑤ 帝国大学出身の学士の入学は割合緩く認められたようで、また科目によつては受講が免除されるものも少なからずあつて、三年間かかなくても二年あるいは一年間の在籍で卒業が可能であつたため、二つ以上の学士号をもつことはそれほど困難なことではなかつたと思われる。問題は学士入学の当人達にとつての意味がどのようなものであつたかであり、表⑦⑧でもうかがわれる再入学先の選択の多様な動向の問題とあわせてくわしい検討が必要と思われる。そこには、高等学校生とはまた違つた、すでに「大学」を経験した学生達による、いわば内側からの大学観ないし大学評価の問題も関連してこよう。

表⑥ これで見ると、学生個々の動機や背景はともかく、大学院の場合よりはるかに、学士入学が、東大と他の帝大の学生の交流という側面をもつていたといえよう。

凡例

(1) 表⑤と⑥を詳しく見てゆくと⑥の学生総数がほんのわずか⑤より少なくなつてはいるが、これは、学士入学者であることはわかつて、どこの出身者か不明である事例がわずかながら存在することによる。

(2) ある期間を区切って、法律学科と政治学科の入学者の内訳を示したが、他の学部、特に医の医と薬、経済の経と商などを同様にとりあげなかつたことには問題が残る。資料的な制約から法の場合も部分的な期間しか対象とし得なかつたこととあわせて、今後集計をより整備したい。

(3) 特に東北や九州の場合、法文学部中には法学・経済学・文学の各領域の学科を含むわけで、学生個々にちがひつて調べないかぎり、出身学部の表示だけからは、その修学分野がつかめない。このことは表⑦⑧においても、東北法文卒→東大経入学というケースが、⑤→⑥なのかあるいは⑥→⑤、

⑥→⑦と分類されるべきかあいまいなのに⑥→⑦として処理せざるを得ないという問題を残すことになつた。

表⑦⑧ このように学部の配列に手を加えて、文科系、理科系と区分することにどれほどの意味があるかは議論のあるところであらうが、それでも工・農↓法・経の動向を中心とする⑥→⑦の事例の多さは注目されよう。

注(1)

農学部(農科大学) 実科は、農学・林学・獣医学の三科よりなり、明治三十一(一九〇六)年それまでの農科大学乙科を再編して設置されたもので、中学校卒業程度を対象とした専門学校レベルの機関であつて、昭和十(一九三三)年東大より分離独立して、東京高等農林学校(現在の東京農工大の系譜の一つ)になつた。また農業教員養成所は明治三十一(一九〇六)年に設置され、修学年限は当初一カ年であつたが明治四十(一九〇七)年からは二カ年、大正十(一九二二)年からは三カ年となつた。師範学校や中学校の卒業者で農業学校教育志望者を対象とし、昭和十二(一九三七)年、東大より分離独立して東京農業教員専門学校(東京教育大学農学部を経て、現筑波大学の系譜に連なる)となつた。表①で昭和八年までみられるかなりの数の中学校・師範学校からの進学者のほとんどは、この二つの機関への入学者である。国家医学講習科は明治二十二(一八九六)年医科大学に設置されたもので、それまでに官公立医学校等で医師免許を得て実務についているものを対象に、より高度で最新の医学水準を紹介することを目的とした。当初十二週間であつた講習期間が明治二十五(一九一〇)年からは四ヵ月とされ、大正十(一九二二)年まで存続した。表①における高等学校医学部、官立医学校の卒業者や医術開業免許所有者等の入学先のほとんどがこれである。選科を含めた附属の教育諸機関についての詳細は『東京帝国大学五十年史』を参照されたい。

(2) 東北及び九州両帝国大学の事例を含めて、高等学校卒業生以外の大学進学の問題については、関正夫「戦前期における中等・高等教育の構造と入学者選抜」(『大学論集』第六集、一九七八年、広島大学教育研究センター)を参照されたい。

(3) 明治二十(一八八七)年、各分科大学に設置された研究科には、研究生の

他に、修業年限五年のうち、はじめの二年間研究科在籍を義務づけられた大学院学生もいて、制度上複雑な構成であったが、明治三十二（一九一九）年、大学院と研究科はきり離され、また医・文・理科大学以外の研究科は廃止された。これ以降、この三研究科は修業年限二年で、大学院とはほとんど同様の規程を有し（ただし大学院修了は、博士學位請求資格につながるが、研究科修了は何ら資格と無関係）、それだけにあいまいな制度で、実態も充分あきらかではないが、明治四十三（一九二〇）年になって廃止された。

(4) これらは、陸軍砲工学校高等科卒業生中学術優等な砲工兵科尉官若干名、及び海軍大学校選科生で高等学校予科卒業以上の学力ありと認められる者若干名を、陸海軍省が文部省を通じて大学に囑託したもので、受け入れ先の学科定員と関係なく入学機会を確保するため、軍の方でこれら学生の教育に関する費用を負担した。当初は入学時期や学科選択につき特別な課程を有していたが、明治三十九（一九〇六）年、ほとんど一般の学生と同様の規程に従うものとされた。

(5) それまでは、たてまえとしては、高等学校の中心は、医学部・工学部等の専門教育課程であつて、大学予科は附設的なものとされたが、実際は、帝大進学コースとしての予科の人氣が高く、この改正で、その実態に即した規程をもつたことにより、高等学校と帝大との結びつきはますます強まった。専門職業教育の問題は、実業高等専門学校体制の整備にひきつがれてゆく。

(6) 注(3)でも触れたように、明治三十二年の改正で、大学院は研究科と分離され、しかも大学院生の取扱いのほとんどは各院生の指導教授の所属先の分科大学が、一般の学生と同様、縦割の形で所管することとなった。

(7) 外国人学生の修学状況や卒業後の動向を調査する書類でも、朝鮮及び台湾の学生は常に外国人学生と一括されている。

(8) 「教育審議会」の高等教育問題の検討に連なる東大内の委員会での次のような意見も一例といえよう。「……単科大学や私立大学ノ卒業生ヲ入レズシテ中華民國其ノ他ノ大学ノ卒業生ヲ入レルガ如キ國際親善ヲ

織リ込ム如キ方策ハ大学院ノ目的ニ副ハザルガ故ニ之ヲ取りヤメルコト
……外国大学ノ卒業生ニ対シテハ別途ノ制度ヲ考ヘル様ニシタシ……」
〔東京帝国大学制度臨時審査委員会 第二特別委員会（第五回）議
事録〕昭和十四年十月三日

(二)やの そざい・百年史編集室)

東京帝国大学入学者に関する統計表・グラフ目次

- ・表①△東京帝国大学入学前学歴別入学者数▽——明治三十三（一九〇〇）年～昭和十七（一九四二）年——
- ・表②△外国籍学生・生徒入学数▽——明治三十三（一九〇〇）年～昭和二十（一九四五）年——
- ・表③△外国籍大学院学生入学数▽——右に同じ——
- ・表④△大学院入学者中、官私立大学出身者の内訳▽——昭和十（一九三五）年～昭和十七（一九四二）年——
- ・表⑤△学士入学者数▽——明治三十三（一九〇〇）年～昭和十七（一九四二）年——
- ・表⑥△学士入学の出身大学・学部及び入学先内訳▽——右に同じ——
- ・表⑦△学士入学の動向▽——表⑥をもとに作成——
- ・表⑧△学士入学の傾向▽——表⑦をもとに作成——
- ・グラフ①△外国籍学生、生徒入学数▽——表②③をもとに作成——

表① 東京帝国大学・入学前学歴一覧——東京帝国大学一覧・文部省年報より作成——

入学前最終学歴	明治											大正											
	33 (1900)	34 (01)	35 (02)	36 (03)	37 (04)	38 (05)	39 (06)	40 (07)	41 (08)	42 (09)	43 (10)	44 (11)	45/1 (12)	2 (13)	3 (14)	4 (15)	5 (16)	6 (17)	7 (18)	8 (19)	9 (20)	10 (21)	11 (22)
東京帝国大学	132	96	108	133	186	168	248	164	216	277	143	127	130	113	87	128	123	136	120	126	122	154	158
京都						1				1			5	2	1	1	1	5	4	4		1	
東北																							
北海道																							
九州													1					2				1	
大阪																							
名古屋																							
官公立大学																							
私立大学																							
外国大学	1							1															
その他 (学力検定等)												1	1					1*		1			
(高等学校 山口高商・ 北大予科も含む)	526 (3)	593 (7)	710 (7)	694 (4)	836 (2)	869 (10)	1018 (3)	1008 (3)	1010 (2)	976 (3)	1122 (3)	1100 (4)	1147 (3)	1194 (3)	1211 (1)	1143 (2)	1177 (1)	1157 (2)	1134 (1)	1284 (2)	1306 (2)	1344 (3)	1714 (1)
学習院	5	6	23	25	34	15	32	28	7	19	5	8	7	10	5	6	7	18	10	8	14	21	25
学力検定	2	5 (1)	4	4	22	20	28	30	19	15	9	13	29	41	45	59	40	56	39	43	115	30 (1)	16 (3)
再入学	3	2		6	5	8	6	7	5	7	15	18	11	9	7	19	16	10	13	12	10	8	6
転学・転科				(1)	(1)		(2)	(1)	(4)	(1)		(2)	(3)	(1)		(4)	(4)	(1)	(2)	(6)	(9)	(13)	6
東京帝国大学	1	1	2	11	10	25	77	31	31	38	8	11	6	6	3	11	6	4	6	14	19	↑	↑
京都				(1)	1	1				(1)	(5)											3	不
東北															1	1	1	1				不	不
北海道(札幌農 学校も含む)	(1)					(1)	(1)								(1)				2	4	1	明	明
九州																			(1)			↓	↓
大阪												1											
名古屋																							
官立高商・ 商科大学				(1)						(1)						(1)						(1)	
官立高工・ 工業大学					(1)						(2)	(1)			(2)	(1)		(1)	(2)		(4)	(1)	(8)
高師・文理大					(1)	(2)	(1)				(2)	(1)			(2)	(1)		(1)	(2)		(4)	(1)	(8)
その他の官公 立高専(医は除く)			(5)	(5)		(2)	(1)			(1)		(2)	(2)	(4)	(5)	(2)	(2)		(8)	(4)	(8)	(18)	
私立学校・ 私立大学	(10)	(12)	(9)	(7)	(18)	(17)	(12)	(9)		(1)			(2)			(1)					(1)	(15)	(10)
外国大学・ 外国学校	(1)	(10)	(4)		(4)	(9)	(2)				(3)	(3)		(4)	(3)	(4)	(3)	(6)	(18)	(8)	(1)	(1)	
中学校 (師範も含む)	(99)	(102)	(110)	(90)	(95)	(97)	(100)	(104)	(96)	(93)	(89)	(98)	(104)	(108)	(85)	(106)	(114)	(132)	(129)	(150)	(142)	(164)	(125)
実業学校		(1)								(1)	(5)	(13)	(11)	(17)	(13)	(14)	(15)	(22)	(22)	(21)	(49)	(47)	
農科大学実科		(1)	(2)				(1)	(1)									(1)						
高等学校 医学部	(5)	(4)	(12)	(9)	(4)		(2)	(4)		(2)	(1)	(1)											
官立医学校・ 医専・医科大学	(7)	(8)	(11)	(9)		(1)	(9)	(10)	(15)	(21)	(21)	(7)	(8)	(3)	(8)	(9)	(5)	(9)	(8)	(7)	(7)	(19)	(8)
医術(薬剤師) 開業免状所有者	(28)	(90)	(42)	(57)	(29)	(34)	(48)	(38)	(54)	(49)	(39)	(41)	(55)	(45)	(33)	(31)	(22)	(16)	(23)	(10)	(5)		
陸軍砲工学校 (陸軍航技学校 科学学校)			3			2	4	5	4	6	5	7	4	4	6	6	5	6	6	6	6	7	9
陸(海)軍 経理学校																					(1)	(1)	(2)
陸(海)軍大学校	(1)																				1		
幼年学校											(1)					(1)	(1)			(1)			
合計	670 (154)	703 (227)	847 (209)	877 (182)	1094 (149)	1107 (169)	1414 (187)	1273 (173)	1274 (173)	1337 (175)	1308 (153)	1283 (167)	1345 (195)	1380 (175)	1366 (155)	1385 (172)	1395 (168)	1410 (185)	1349 (192)	1519 (218)	1605 (205)	1775 (266)	2162 (234)

(大学院)

(分科大学・学部)

昭和																							
11	12	13	14	15/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
(1922)	(1923)	(1924)	(1925)	(1926)	(1927)	(1928)	(1929)	(1930)	(1931)	(1932)	(1933)	(1934)	(1935)	(1936)	(1937)	(1938)	(1939)	(1940)	(1941)	(1942)	(1943)	(1944)	(1945)
1	4	5	2	2		2						1		1 _{M1}	1	1				1 _{A1}	2	3	
																					(3)		
1	4	2		1				1						1							2	1	2
(4)	(2)		(4)	(5)	(2)		(1)	(1)				(2)	(2)	(2)				(1)	(7)	(1)		(1)	
9	4	3	4	2	1		2	1		1 _{M1}											(2)	3	
																						1	1
5	7	2	3	5	2			2				1		1	2	2 _{A1}	2	1	3	7 _{C1}	6	2	
												(1)					(2)	(2)	(5)	(3)		(1)	
1		1		3			1					1						1				1	
																(1)	(1)		(3)				
2	4	6	5	5	2	1	2					1	2	1	4 _{C1}	1	3	1	2	8	3		
(1)	(1)		(1)								(1)	(5)	(8)	(1)		(4)	(2)	1 _{C1}	(3)				
7	2	4	1	2		1											1	1		1	1	4	
																(5)	(3)	1 _{C1}	(1)	(1)	(4)	(7)	
26	25	23	15	20	5	4	5	4	0	1	0	3	1	5	4	7	4	6	4	14	22	15	0
(5)	(3)		(5)	(5)	(2)		(1)	(1)				(3)	(3)	(7)	(4)	(4)	(6)	(8)	(2)	(9)		(2)	

国籍表示

- ・A…アメリカ, Af…アフガニスタン, F…フランス, I…インド, It…イタリア, M…満州国, P…フィリピン, R…ロシア, Th…タイ,
- ・K…朝鮮 (明治43(1910) 日韓併合以後は外国人としては数えられなくなる)。
- ・無印及びC…明治33(1900)年～45(1912)年までは清国, 大正2 (1913)年～7 (1918)年までは支那, 昭和6 (1931)以降は中華民国。

昭和																							
11	12	13	14	15/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
(1922)	(1923)	(1924)	(1925)	(1926)	(1927)	(1928)	(1929)	(1930)	(1931)	(1932)	(1933)	(1934)	(1935)	(1936)	(1937)	(1938)	(1939)	(1940)	(1941)	(1942)	(1943)	(1944)	(1945)
3	1	1	2	2	1	1	1	2	4		2 _{C1}	4	3	2 _{A2}	2			1	1	1		3	
			1					2											1				
		3	3				1				1		1	1	1								
2 _{A1}	2	2	4	3	1	3	6	5		2	16	22 _{C1}	38 _{C35}	16 _{A13}	3	3 _{C1}	3	2	3 _{A1}		2		
	1				1	1		1	2			2	1	2				2 _{C1}		1			
1			4	3	4	4			1	4	15	17	19	17			3	3	9	7 _{A1}			
2	3	6	4	3	3	3		2		1	2	0	1							1 _{A1}		2	
3	6	10	14	14	10	10	13	10	12	3	10	37	46	62	38	3	6	9	13	13	0	7	0

表② 外国籍学生・生徒入学数 (学部——大正年までは分科大学) ——文部省年報より作成——

	明治										大正											
	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	(1900)	(1901)	(1902)	(1903)	(1904)	(1905)	(1906)	(1907)	(1908)	(1909)	(1910)	(1911)	(1912)	(1913)	(1914)	(1915)	(1916)	(1917)	(1918)	(1919)	(1920)	(1921)
法							4		6 _{C₂}	4	2				6	6	1	3	5	7	3	1
	(1) _K	(5) _{K₁}	(1)	(1) _{P₁}		(3)	(0)	(6)	(1)				(2) _{C₁}	(1) _{F₁}								
医							1 _{R1}	1 _{II}	1		6	1				1	1	1	2 _{P₂}	1 _{P₁}		
	(1) _I	(3) _{K₁}			(2) _{P₁}	(3) _{C₁}	(1) _I	(4) _{C₁}	(1)	(2) _{C₁}	(4)	(3)	(6)	(6)	(6)	(7)	(9) _{F₁}	(11) _{C₂}	(20)	(4)	(3)	
工								2	5	1				9	6	2	4	6	6	7	5	
	(7) _{I₂}		(7) _{C₁}	(3) _{K₁}		(1)	(1)							(1)								
文							2	2 _{R₁}	2		1 _{R1}		1	1 _{A1}	3 _{A₁}	1		1	2	3	2	
							(4)	(1)	(1)	(5)	(1)	(6)	(2)	(4)						(2) _{C₁}		
理								5					2	2	2	3	1			2	2	
				(3) _{I3}		(3)	(1)										(1)					(1)
農									1 _{K₁}	1				4	1	2	3	3		2	2	1
	(1) _{K₁}	(1) _{K₁}						(5)	(2)			(1)	(2)									
経																				8	8	11
計	(0)	(8)	(9)	(7)	(2)	(20)	(6)	(2)	(8)	(9)	(1)	(0)	(8)	(13)	(7)	(6)	(8)	(9)	(11)	(20)	(16)	(4)

※・実数は本科学学生、()内は選科生徒。 ・昭和17(1942)～20(1945)年の一工、二工はそれぞれ第一工学部、第二工学部。
 ・大正8(1919)年度～昭和5(1930)年度は年報に国籍の区分がないが東京帝国大学一覽の学生生徒姓名の項等を参照してみ
 ると大正8年のフィリピン人、同9年のロシア人以外は中華民國よりの留学生であると思われる。

表③ 外国籍大学院学生入学数 ——文部省年報より作成——

	明治										大正											
	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	(1900)	(1901)	(1902)	(1903)	(1904)	(1905)	(1906)	(1907)	(1908)	(1909)	(1910)	(1911)	(1912)	(1913)	(1914)	(1915)	(1916)	(1917)	(1918)	(1919)	(1920)	(1921)
法				1 _{K₁}			1 _{K₁}				1											2
医																						
工															1	1			1	1		1
文	1 _{A₁}						1 _{A₁}				1 _{R₁}	2 _{R₂}		1 _{R₁}	1 _{R₁}		1	1 _{R₁}				
理																					1	1
農																					1	1
経																						
計	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2	0	2	2	0	1	2	3	4	3

※ 表のみかたは表②と同じ。G…ドイツ。

		昭和																							
		9	10	11	12	13	14	15/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	17.10
		(1920)	(1921)	(1922)	(1923)	(1924)	(1925)	(1926)	(1927)	(1928)	(1929)	(1930)	(1931)	(1932)	(1933)	(1934)	(1935)	(1936)	(1937)	(1938)	(1939)	(1940)	(1941)	(1942)	(1943)
1		60	18	28	43	40	33	26	36	41	25	39	36	35	27	28	27	17	5	6	5	6	6	(1)	
			(5)	(12)	(18)	(17)	(14)	(16)	(23)	(27)				(1)	(1)	(2)	(1)								
1																		1		1					
1																				1			1		
																				(1)					
3	不明	10	10	8	10	8		1	1													4			
					(4)																	(2)			
1		2		2	1		1		(1)												(1)	(1)			
					(2)																				
						1	1	2	3	1	2	1	2												
13		26	1	10	32	51	48	18	14	24	19	24	28	4	6	5	2	1		1		1	(1)	(1)	
		(2)	(4)	(2)	(4)	(11)	(15)	(15)	(17)	(4)	(8)	(11)	(16)	(3)	(3)	(2)	(1)	(1)		(1)		(1)	(1)	(1)	
19		99	29	48	87	100	84	47	52	68	45	65	64	39	33	35	31	19	13	15	8	9			
		(3)	(9)	(16)	(36)	(28)	(34)	(32)	(30)	(31)	(8)	(16)	(16)	(4)	(5)	(4)	(5)	(4)	(4)	(5)	(5)	(3)	(4)	(4)	

※ 大正12年度～昭和12年度は各年度の『一覽』あるいは『要覽』中の「学生生徒姓名」の項にあたり学士入学者を数えたものである。

表④ 大学院入学者中官私立大学出身者の内訳——東京帝国大学一覧より作成——

	昭和10 (1935)	11 (1936)	12 (1937)	13 (1938)	14 (1939)	15 (1940)	16 (1941)	17 (1942)
(官立大学)	京城帝国大学(法文)		*1(経)		*1(法)	*4(法 ¹ _{支3})		*1(法)
	台北帝国大学(文政)						*1(経)	
	新潟医科大学		1		1			
	千葉医科大学						1	
	東京工業大学		*1					
	東京文理科大学				女 1(農)			
(私立大学)	明治大学(法・政経)	女 1(法)			女 1(法)			*1(法)
	中央大学(法)					*1(法)	*1(法)	
	法政大学(法文)							*1(経)
	早稲田大学(政経)						*1(農)	
	日本大学(工)			1	1			2
	慶応義塾大学(医)		2					
	慈恵会医科大学		1	1				1

*印は外国人(すべて中国籍), ()内は進学したセクション。

表⑤ 学士入学者数——表①と同じ資料的基礎をもつ——

	明治 33 (1900)	34 (1901)	35 (1902)	36 (1903)	37 (1904)	38 (1905)	39 (1906)	40 (1907)	41 (1908)	42 (1909)	43 (1910)	44 (1911)	45/1 (1912)	大正 2 (1913)	3 (1914)	4 (1915)	5 (1916)	6 (1917)	7 (1918)	8 (1919)	
(分科大学・学部)	法	1	1																		
	医			2		1 (1)	2 (1)	3		4		4		1	1	5 (1)	(1)				
	工				(1)					4	2	2	2	2		3	3			1 (1)	
	文							1		1	1	4	2	3	2		1	3		4	3
	理									1		1		(1)	(1)	1	1		1		(1)
	農					1	7							2		2	2				
	経																				11 (4)
計	1	1	2	(1)	2 (1)	9 (1)	3	1	0	10	3	11	6 (1)	6 (1)	4	11 (1)	6 (1)	4	5	14 (2)	

* 実数は東大内からの入学者。 ()内は他帝国大学からの入学者。

表⑥ 東京帝国大学学生入学者の出身大学学部及び入学先の内訳

出身	入学先		法	医	工	文	理	農	経	計	
	(法)	(政)									
東京帝国大学	法	293 (54)	(184)	1		45		8	222	569	東大 小計 (1102)
	医	5 (2)	(3)	6		4	1	1		17	
	工	51 (11)	(40)	2	10	3	6	3	20	95	
	文	87 (38)	(39)	1		6	1	2	48	145	
	理	8 (3)	(5)	9	8	8	2	11	3	49	
	農	46 (15)	(30)	7	5	4	1	3	2	98	
	経	86 (43)	(42)			10		2	31	129	
京都帝国大学	法	1 (1)				4			34	39	京大 小計 (158)
	医	1 (1)								1	
	工	10 (2)	(8)	2	1	1			11	25	
	文	10 (5)	(3)						10	20	
	理	1 (1)			1					2	
	農	15 (6)	(8)				1		1	17	
	経	52 (36)	(16)			1			1	54	
東北帝国大学	法	8 (3)	(5)				1	2	26	37	東北大 小計 (71)
	医	1 (1)					1			2	
	工	3 (2)	(1)				2		2	7	
	理	13 (7)	(6)						5	18	
	農			1	1		1		4	7	
九州帝国大学	法	17 (14)	(3)					2	28	47	九大 小計 (61)
	工	7 (5)	(2)					1	2	10	
	農	1 (1)					1		2	4	
北海道帝国大学	工								5	5	北大 小計 (29)
	農	10 (6)	(4)		1	1	2		10	24	
名古屋帝国大学	工							1		1	名大 小計 (1)
計		726		29	27	87	20	35	498	1422	

※ 法学部の(法)は法律学科,(政)は政治学科で大正12(1923)年~昭和12(1937)年の15年間に限った内訳。
 なお、例えば京大農→東大法の欄で(6)+(8)=15となるのは、大正12年~昭和12年の期間中以外の年度にも
 学士入学者がいたことを示すものである。

表⑦ 学士入学の動向——表⑥をもとに作成——

入学先 出身学部	法 (法) (政)	文	経	工	農	理	医	計
法	293 (26) 54 (17) 189 (9)	45 (4)	222 (88)	0	8 (4)	(1)	1	569 (123)
文	87 (10) 38 (5) 39 (3)	6	48 (10)	0	2	1	1	145 (20)
経	86 (52) 43 (36) 42 (16)	10 (1)	31 (1)	0	2	0	0	129 (54)
工	51 (20) 11 (9) 40 (11)	3 (1)	20 (21)	10 (1)	3 (1)	6 (2)	2 (2)	95 (48)
農	46 (26) 15 (13) 30 (12)	4 (1)	32 (17)	5 (2)	3	1 (5)	7 (1)	98 (52)
理	8 (14) 3 (7) 5 (7)	8	3 (5)	8 (1)	11	2	9	49 (20)
医	5 (2) 2 (1) 3 (1)	4	0		1	1 (1)	6	17 (3)
計	576 (150) 166 (88) 343 (59)	80 (7)	356 (142)	23 (4)	30 (5)	11 (9)	26 (3)	1102 (320)

※ 本表及び下の表⑧において、実数は東大内からの学士入学者、()内は他大出身者を示す。
 ※ (法)(政)は表⑥と同じく大正12年～昭和12年の15年間に限った内訳である。
 従って例えば農→法の場合、15+30<46、(13)+(12)<(26)となるのはこの15年間以外の年度に
 学内からも学外からも学士入学者があったことを示すものである。

表⑧ 学士入学の傾向——表⑦をもとに作成——

入学先 出身学部	法 文 経	工 農 理 医
法 文 経	⊗→⊗ 828 (192)	⊗→⊗ 15 (5)
工 農 理 医	⊗→⊗ 184 (107)	⊗→⊗ 75 (16)

グラフ① 外国籍学生・生徒入学数

